

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の基本理念、基本方針を踏まえた上でグループホーム特性を考慮した独自の理念を策定している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気</li> <li>・居心地のいい空間</li> <li>・その人の可能性を見出そう</li> <li>・地域でイキイキ</li> </ul>
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各職員を採用するにあたって理念をもとに事業所の取り組みを伝えている。また、ホームの理念を提示し、理念を念頭に年次事業計画を策定し、日々業務に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約時に理念を説明し、ホームでの生活において、理念に基づいてサポートしていくことを伝えている。また、運営推進会議でも理念を記載した事業計画書を配布し、説明している。	地域支援に関する取り組みについては、大阪認知症高齢者グループホーム協議会が実施した「認知症高齢者への支援を目的としたグループホームと地域との連携」調査研究のヒヤリングに協力するなど、積極的にホームの理念の浸透をおこなっている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝の挨拶見守り掃除、「こども110番」ステッカー、旗の掲示、小学校児童の慰問受け入れを行うとともに、散歩や買い物時など日常的に近隣の方と挨拶を交わしている。	入居者と職員が一緒に施設周辺で実施している「朝の見守り掃除」の際に、登校中の児童と挨拶を交わし、通学を見守っている。この活動を通じて、地域の小学生が本読みやカルタ、お話相手に気軽に立ち寄ってくれるようになった。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元町内会が主催する運動会や地域交流サロンへの参加、地域の秋祭で「だんじり」の宮入見物、施設行事のアムリタ祭に地域住民の招待など交流に努めている。	毎年10月に開催する「アムリタ祭」には、地域住民の皆さんが多数参加し、交流している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元長生会が主催する長生大学の講義の講師を引き受けたり、地域交流班の会議で地域の中で施設の機能を活かせることがないか話し合っている。		社会貢献や地域交流を検討する「地域交流班会議」を原則毎月1回開催している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は管理者と職員が会議で話し合い意見交換しながら作成完成している。自己評価並びに外部評価における改善事項については、職員全員で現状を振り返り事実を確認し取り組んでいる。		自己評価については、評価票を事前に各職員に配布し意見を求めるとともに、グループホーム会議において集約した。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において自己評価並びに外部評価の結果を報告するとともに、入居者並びに家族からの改善に向けた意見を全職員に周知し、サービスに活かせるように取り組んでいる、		運営推進会議においては、入居者並びに家族がホーム職員以外（民生委員、地域包括支援センター職員）にホームでの生活に関する感想や不満も含めた意見が出せるように進行している。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課及び地域包括支援センターと日常的に連携し、担当職員からの虐待等困難事例の受け入れ相談に応じている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修として、権利擁護、成年後見制度の研修を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止ハンドブックを参考にするなど、グループホーム会議の中で勉強会を実施している。		行動制限（身体拘束）は高齢者虐待であると認識し、行動制限廃止に関する会議を開催している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>苦情はもちろんのこと、些細な不満についても記録し、内容、問題の性質、背景及び対応状況を整理し、分析している。なお、年間事業報告書に苦情の内容や件数を記載し、公表している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	<p>行きたい所への個別支援、誕生日会など、個別の支援実施後、家族毎に紙面にて報告していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>匿名の苦情を受付けるための意見箱を、玄関先、エレベーター内に設置している。入居者からの苦情とあわせて年間事業報告書に苦情の内容や件数を記載し、公表している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>職員数も少ないため、日頃の何気ない発言（つぶやき）にも注意している。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>必要に応じて話し合い、勤務シフトを調整している。また、急変などの緊急時は連絡網にて職員が出勤するシステムとなっている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のスキルアップに繋がる異動希望は考慮するが、無意味な人事異動は行わない。退職者が出た場合においては、入居者のダメージを極力避けるため、就職直後にOJTによる研修期間を設ける等配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員を含め外部研修に順次参加している。研修依頼があれば職員の希望を優先し、研修参加後会議の時に発表を行なっている。		研修参加者は必ず報告書を提出するとともに、学んできたことを他の職員に伝える場面を設けている。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等での意見交換、相互研修を行い相互のサービスと向上の為に取り組んでいる	○	市担当課とともに、市内の他の地域密着型サービス事業者と連携を深めていける活動を行ってきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフトを工夫したり、人事考課においてフィードバック面接を実施するなど、定期的に職員の意見や不満を聞く機会を設けている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課においてフィードバック面接時に日頃の努力や実績を確認し期末手当を支給している。		資格取得のための勉強会や研修会に参加できるように配慮している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面談時より本人から傾聴し、本人が納得するまで話を聞くようにしている。また、家族などの介護者からも情報を得ている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話しやすい雰囲気づくり、プライバシーに配慮した相談スペースを用意し、初期の相談時より家族などの介護者からの質問等について、納得するまで耳を傾け、説明している。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた地点で必要としている支援を見極め、自法人及びグループ法人が運営する各種介護施設、在宅介護サービス並びに他の事業所、公的なサービスなどと連携し対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者並びに家族には、ホームの見学をしていただき、しばらく経過していただくなど、雰囲気に馴染んでいただくように配慮している。また、入居当初は特に家族との連携を密にし、些細なことでも連絡するようにしている。	家庭で使っていた馴染みの物品を持ち込んでいただけるように配慮している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々が得意な役割を持ち生き生きと活躍できるように支援している。1日の生活全般の中で一緒に支えあっている。	野菜切り、食器拭き、洗濯たたみと個々がそれぞれの役割を分担し参加されている。料理の仕方においては職員が学ぶことの方が多い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	気付いた事、生活状況について話し合い、共に考え支えて行く関係を築いている。		家族の方にはご協力して頂いていることも多く、共に考え入居者を支える関係が築けている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係をよく理解し、面会時や行事などにおいて一緒に過ごして頂く機会をつくったり、良い関係を築けるよう努めている。		家族交流会（新年会、七夕）、家族が参加して頂ける日にお誕生日会を開催したり、関係継続の支援をしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所への個別支援でなじみの場所に出向いたり、近所の人と再会できる機会をつくっている。		重度となり併設の特養へ移った方に入居者と一緒に会いに行ったり、アムリタ合同行事の時は隣どうしの席になるよう配慮している。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立してしまわないよう常に全体を見ながら声かけしている。		時には大声で怒鳴りあうこともあるが、職員が仲裁ししたり、食事などの席を変えたりしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養に入所された方には面会に行ったり、行事で一緒になる時は極力近くで過ごしている。		病院に入院となった方に対しては、時々お見舞いに行き、今後の方向性などの相談にのるなど、できる限りの支援を継続している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取り、訴えの中から話題を広げていくことで意向の把握に努め、訴えやすい環境を作っている。	グループホームの行事後は、支援経過記録以外にヒアリングを実施し、表情や様子を実行書に記録し、想いや意向を引き出し、次回の企画に活かせるように取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前から情報収集に努め、入居後も本人や家族の会話の中から情報把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後の2週間は初期行動観察表を利用し、一人ひとりの把握を行っている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一度ケアカンファレンスを開きモニタリングを行い本人、家族の希望スタッフの意見を話し合いながら6ヶ月に一度介護計画書を作成している。	日常の気づきや普段から状況について話し合い、また、支援経過記録を反映させるとともに、本人、家族の要望を聞き介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度ケアカンファレンス、モニタリングを行い見直しが必要な時には新たに計画を作成している。	○ 家族の面会時などにおいて介護計画の見直しに必要な情報を得ているが、カンファレンスに家族の方にも参加して頂ける日程の調整を行い、よりよい介護計画書の作成を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過以外にも日々の申し送りにより情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		支援経過記録の様式を今以上に介護計画に活かせる内容に変更するために話し合っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院の医師による受診体制の整備を行うとともに、単独事業所では難しいような比較的規模の大きい行事を全体で企画し、参加していただける機会を設けている。		母体の医療法人が運営する病院、介護老人保健施設、グループホームなどとの連携を行い、ネットワークを活かした支援を行っている。
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向に応じて近隣の小学生の慰問を受け入れたり、他ボランティアの受け入れ、消防署の協力を得た消防訓練を行っている。民生委員の方には運営推進会議でも協力して頂いてる。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	フォーマルサービスのみならず、地元町内会が主催する高齢者交流会のサロンの参加を支援するなど、インフォーマルなサポートにも繋げている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	虐待事例により入居の依頼など、地域包括支援センターとの協働を行っている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>かかりつけ医の関わりが薄い入居者へは、特養附属診療所や協力病院でフォローしている。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>認知症の症状について受け入れし難い家族の方の気持ちを理解し、地域のクリニックの専門医等の受診支援を行っている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>併設の特別養護老人ホームの看護師の応援体制も整えており普段から馴染みの関係である。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>入居者が早期退院できるように医療機関との情報交換を行うとともに、面会に行つて本人の様子を直接確認するなど情報の把握に努めている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>状況の変化に応じ家族が方針を決定するための情報を提供したり、早い段階から本人、家族、他職種との情報共有を行い対応している。</p>
	<p>状態をチームで情報共有し合い、家族との連絡を密に行う。ご希望に応じてグループ力を活かした支援を行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び本人に関わる関係者の話し合い、情報交換を行うことでダメージを防いでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドを大切にその人に合わせた対応を心掛けている。個人情報の取り扱いについては個人情報会議にも出席し意識を高めている。		個人情報に記載されているファイルは鍵付の書庫に保管している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合った自己決定ができるようコミュニケーションを大事にし、自己決定できる場面を提供するよう努めている。		遠足、外食、慰問、イベントの参加の意向はご自身に決めて頂いている。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが調和を図りながら一人ひとりの思いに配慮しながら対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じて訪問による美容理髪を利用できるように支援している。行き付けの美容院へ出掛ける人もいる。	○	化粧をしたり、お気に入りの衣服を着たりと、家族の協力を得ながらもっとおしゃれが出来る機会を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、食事片付け等利用者の状況に応じて参加できるように職員と一緒にしている。		嗜好を確認した上で、定期的に外食にも出かけている。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物の希望をお聞きしたり、おやつを選んで頂いたり、日常的に楽しめるよう支援している。		スイーツツアーの時は好きな物を注文して頂いている。日常においては朝食のパンは複数の種類から選択できる内容とし、工夫をしている。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	訴えが無い方はさりげなく誘導したり、日々の観察から排泄のパターンを把握し排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間が限られている現状であるができる限りの範囲で入浴を楽しめる支援を心掛けている。	○	入浴を嫌がる入居者には希望を尊重するとともに、シャワー浴や清拭にて清潔保持に努めている。入浴の回数や時間は職員配置の都合で限界がある。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に入眠を促すのではなく話を聞いたり一緒に歩いたり、個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に応じて仕事を頼んだり、教えてもらったりできる場面をつくり、感謝の言葉を伝えている。		生活歴の把握においては、家族の協力を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持たれている方もおり個々の能力に応じた支援をしている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出掛けたり、季節によって遠足、お花見、外食の支援をしている。		グループホームの横にはテラスがあり、4階には屋上庭園があるので、気候のいい時期は外気に触れる機会が日常的にあり、ストレス発散となっている。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コミュニケーションの中から希望を聞き、行きたい所個別支援で外出、家族さんにも同行してもらう場合もある。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話など本人の希望に応じている。それ以外にも年賀状や暑中見舞いを声かけを行い書いて頂いてる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆっくりとくつろいでいただけるよう配慮している。4階のテラスにも面会の場として活用してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての講習会に参加したり、行動制限廃止会議の中でも話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターは電子ロックしているが、操作盤に暗証番号を表示している。フロアドア、玄関ドアには、日中の時間帯は施錠していない。	○	複合施設の3階にあるため単独のホームより閉塞感があるかもしれない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全を常に心がけ自然な配慮を心がけながら様子の把握に努めている。		特養併設のため、グループホームの夜勤者以外にも、特養の夜勤者や管理宿直者がおり、安全性が高い。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	身体的に危険を及ぼすものは管理、保管しているが、必要に応じて使用する時は見守りで行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は研修に積極的に参加し再発防止に努めている。		合同で行っているリスクマネジメントに関する研修会に参加している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署から施設内研修として救命に関する訓練を行い議事録でいつでも内容が確認できる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行うと共に、泉佐野主催の総合防災訓練にも参加している。非常用の食料の準備もしている。		建物全体が地域住民の避難所的な位置づけとなっており、地域防災にも貢献している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		特に食事量が低下した際には、特養の管理栄養士、看護師のフォローを得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	必要な場所に手指消毒を設置、外部から来園した方にも行っていただいている。感染症対策委員会を行ない会議時伝達している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染症、食中毒予防対策の研修会にも参加し、毎食前及び夜間まな板、ふきんの消毒したり日頃から意識している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	エレベータから乗り降りする時話題の一つにして頂けるよう観葉植物、植木を置いたり工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月1回行っている華道クラブの花を置いて季節感をだしたり、前回の指摘事項のBGMについてもグループホーム内は消し、食事のときに音楽をかけた工夫している。		建物全体が明るい設計となっており、どこにいても光と風が感じられる空間となっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、廊下にも思い思い過ごして頂けるソファを置いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら今まで使い慣れた調度 品、写真を掛けたり思い思いのものを飾っている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	利用者の状態に応じてエアコンの温度調節をおこ なっている。なお建物整備として居室も含めて空 気が常に循環するシステムである。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリーにする事で下肢筋力低下された方 にも自立した生活が送れるようトイレの背もたれ、 手すり、ベット、ベットサイドの手すり と工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	食事づくり、洗濯、生活全般、職員が一緒 に行動し状態の把握に努め個々にあ わせた声かけ支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活 かしている	3, 4階にテラスがあり、花を育て、 入居者の人に水やりをしてもら ったり歩行運動に利用したり、 夕涼み会も行なっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、デイサービスセンター、生活支援ハウス、ヘルパーステーション、附属診療所を併設しており、また、母体の医療法人栄公会では、病院、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホーム、訪問看護ステーション、福祉用具貸与事業所、居宅介護支援事業所を運営しているので、それぞれが連携することにより、当ホームでの入居中のケアはもとより、新入居や退居に際してもグループ全体で支援しています。ホームの運営においては、職員で意見を持ち寄り、また、入居者やご家族の希望を踏まえて年間事業計画を策定し、月次で進捗管理を行い年度末には報告書をまとめ、翌年の運営に活かす努力をしています。地域密着型サービスに位置付けられてからは、運営推進会議の場を活用するなどし、それまで以上に地元自治会との交流を深めています。日常の援助においては、少人数というグループホームの特性を活かし、個別の外出の機会を設けるなど個々のニーズを大切にしています。